



【やまだ きょうへい さん】 千歳科学技術大学4年 / 21歳
●千歳科学技術大学YOSAKOIソーラン部「光一天」で活躍中。「YOSAKOIソーランちとせトーナメント」で初優勝した昨年、代表を務めた。

魂をこめた演舞。たくさん
の人に見てほしい。

7月、夏本番を迎えるこの頃、市役所の前庭などで行われる「スカイ・ピア&YOSAKOI祭」。たくさんの人が冷えたビールを飲みながら、「YOSAKOIソーランちとせトーナメント」で繰り広げられる熱い演舞に心を震わせる。

昨年、ちとせトーナメントでは、道内各地から集まった28チームの頂点に、初めて千歳のチームが優勝に輝きました。

それが千歳科学技術大学YOSAKOIソーラン部「光一天」『こういつてん』です。

優勝した当時、光一天の代表を務めていたのが、山田さんです。

山田さんは、大学に入学したときにYOSAKOIと出会いました。

「YOSAKOIは、テレビでしか見たことがありませんでした。大学の部活紹介で初めて生の演舞を見たとき、不思議と自分の中で踊っていることを想像しました」と入部した当時を振り返ります。

「全員で踊っているときは、本当に楽しい。練習を重ねるたびに生まれる、踊りの一体感が手に取るように分かるんです。そのときのわくわく感はずっと残ります」と語る山田さん。

しかし、昨年は、メンバーの意識統一ができないことに苦労しました。

「踊りに一体感を持たせるためには、まずメンバー全員の気持ちがつにならなければいけません。大会で優勝を目指す口にする一方で、練習に身が入らず、チームの向かう

べき目標を見失いかけていました。メンバー全員には、『自分たちの踊りで多くの人を感動させよう』という強い思いをずっと、伝え続けました。そうして生まれた一体感。あらためてメンバー全員で踊っているという思いがこみ上げてきました」と山田さんは話します。

7月13、14日の2日間で行われる今年の「YOSAKOIソーランちとせトーナメント」。

今年の光一天は、アイヌ語で「魂を呼ぶ踊り」を意味する「ラムマツタクリムセ」という演舞を披露します。

4年間の集大成として、山田さんは「今年も優勝を狙います。魂を込めた私たちの踊りをぜひ、見に来てください」と強い意気込みを語ってくれました。

人のいる風景

SCENERY OF PEOPLE



山田



KYOHEI
YAMADA

恭平

さん